

第V章 鳥害対策について

1. 鳥の基本知識

1) 視覚

鳥は人間と同様に、視力に頼って生活する生き物です。したがって、鳥の目は非常に能力が高く、人間よりも多くの色を識別できると言われています（一部の鳥では紫外線も見える）。なお、鳥は「鳥目」だから、日が沈むと何も見えなくなるとよく言われますが、鳥は少々周りが暗くなっても、視力が急になくなったりはしません。カラスでは、周りが薄暗くなって姿が目立たなくなってから、ねぐらへと移動することが知られています。

2) 嗅覚

嗅覚は鳥では一部の種類（ハゲワシや海鳥）を除いては、あまり鋭くは無いようです。「腐臭を嗅ぎつけてくる」と一般によく言われるカラスも、エサを探すときに嗅覚はあまり使わず、視覚に頼ることが知られています。

3) 聴覚

聴力も、鳥はあまり鋭くはなく（フクロウなどの例外を除く）、人間よりやや劣る程度です。

4) 頭脳

鳥の状況判断能力、学習能力は高く、「三步ですぐに忘れる」わけではありません。従って、間接的な脅し（爆音・かかしなど）はすぐに危険がないことを見破って馴れてしまいます。

5) 体重

羽毛のためにふっくらしてみえますが、鳥は空を飛ぶ生物ですので体重は軽く、大きく見えるカラスでも体重は700gほどです。

6) 食べ物の消化

なるべく体を軽く保っておく必要があるために、鳥がエサを食べてから排出するまでの時間は非常に短いことが知られています。例を挙げると、ヒヨドリが果実を食べてから糞を排出するまでの時間は、わずか20分であることが明らかとなっています。

2. 被害対策の考え方と実際

1) 「夢の方法」は存在しない

近年は多種多様な鳥よけグッズが販売されており、中には相当高価なものも含まれています。しかし、防鳥ネットなど物理的に作物を囲い込んでしまうもの以外は、最終的には鳥が慣れてしまう場合が多いため、過信は禁物で

す。忌避剤もかなりの種類が販売されています。農薬登録されているもの（チウラム剤など）は効果が確認されていますが、播種時など限られた場面でのみしか使用することはできず、効果も絶対的ではありませんので、依存しすぎないようにする必要があります。

効果的な対策法はケースにより異なると言えます。耕作規模、被害程度、投入可能な労力・コストをよく考え、色々な方法を戦略的に組み合わせることにより、それぞれのケースに合わせた現実的な対策を講じていく必要があります。

2) なるべく鳥が飛来しにくい環境を作る

* 獣害と同様に、被害の起こりにくい環境を整備することは全ての対策の下地として非常に重要です。

- (1) 圃場のそばに生ゴミなどを捨てると、それが鳥を誘引することがあります。特に、上空からでも目立つもの（オレンジの皮など）が捨てられている場合は注意が必要です。地中に埋める、蓋つきのゴミ箱に捨てる、等の対策をとりましょう。
- (2) スズメなど小鳥類は、何かあったときにすぐに逃げ帰ることができるように、茂みなどの逃避場所の近くで採食する傾向があります。圃場周辺の逃避場所になるような場所を、可能な限り除去するようにしましょう。
- (3) ダイズなどでは、発芽がばらつくと、その分ハト類などにより被害を受ける期間は長くなり、被害量も大きくなります。均質な土づくり、広域一斉種播などを検討してみましょう。
- (4) その他、気づいたことはどんどん実行していきましょう。「なにか被害を助長しているものはないかな？」という視点で常に圃場をチェックすることが、最も肝要です。

3) 対策しやすい圃場デザインを考える

* どんな対策を行うにせよ、それがすんなり導入できるように圃場が整備されているかどうか、成否を分けます（作物は整然と植えられているか？作業道は確保されているか？など）。耕作規模や目的（それで生計をたてているのか？自家消費か？）などを考えながら、圃場デザインを可能な限り整備していきましょう。

- (1) ツル性の作物（スイカ・カボチャなど）は、従来の栽培方法ですと、面積が広く必要となるため、防鳥ネットなどで囲い込むなどの対策をとるのは困難となります。古パイプなどでフレームを作り、立体的に仕立てることにより、生育範囲が小さくなることで対策がやり易くなります。

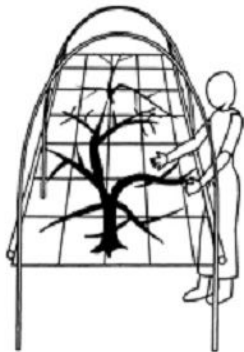


スイカの受け棚栽培



カボチャの立体栽培

- (2) カキなどの果樹類もサイズが大きくなりがちで、対策がやりにくい作物です。なるべく低樹高に仕立てることで、労力を低く抑えることができます。また、収穫作業も楽になるので、鳥を誘引する原因となる放置果実の発生を減らすことができます。



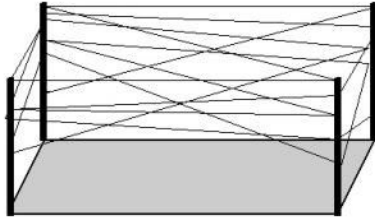
カキの低面ネット栽培

4) まず、物理的な侵入防止対策を考える

* 音や光などによって鳥を間接的に追い払う方法は、馴れが生じるのが早いという弱点があり、完全なものは未だ開発されていません。ネットや防鳥糸などの物理的な対策の方が、現在のところ確実性があります。

- (1) ネットで作物を囲うのは、最も確実な方法です。ただし、設置には労力がかさみ、積雪地では降雪前に片づける必要があります。前述のように、設置・撤去がやりやすいような圃場デザインを、併せて考える必要があります。
- (2) テグスなどの防鳥糸を用いる方法は、ネットよりも効果は劣りますが、手軽に実施可能で、被害程度に応じて追加設置していくことも容易です。特にカラスなど小回りの利きにくい鳥に効果を発揮します。張り方は、なるべ

く立体的かつランダムに張った方が効果は高くなります。また、ミシン糸など弱い糸を用いると、糸が絡まって機械が故障するといった事故を避けることができます。



←防鳥糸はなるべく立体的・ランダムに張る

5) 間接追い払いグッズはこころ一番で

* 音や光などによる間接的追い払いグッズは、前述のように鳥が慣れると効果は無くなってしまいます。従って、長期間置きっぱなしにするのではなく、収穫直前など一番被害を受けたくない時期に、短期決戦的に使用するのがコツとなります。

(1) 爆音器や、忌避音声（鳥の叫び声など）発生装置などは、住宅地と圃場が近い場合に、騒音トラブルが発生することがあります。使用する場所や時間帯には注意が必要です。

(2) 案山子や目玉風船なども、鳥が馴れてしまうと効果は無くなってしまいます。ただし、案山子は顔の部分が人間に似ている（マネキンなど）ほど、効果が高く、馴れるまでの期間を長くすることができます。また、これらは手軽に設置・撤去できるのが利点ですので、場所をこまめに変えてやるといった工夫をすると良いでしょう。

(3) その他、様々なグッズが販売されていますが、最終的に鳥が慣れないものは無いということを覚えておきましょう。効果の持続期間は一概に言えませんが、顕著な効果が期待できるのは長くとも1~2週間程度です。

3. 鳥種別被害対策各論

1) カラス

比較的小回りが利かない鳥ですので、防鳥糸の設置などが効果的です。また、死骸をぶら下げておく方法がよく見られますが、他の追い払い方法と同様に、しばらく経つと慣れてしまうようです。

農作物被害ではありませんが、人間を襲ってケガをさせた例が報告されていますので参考までに少し触れておきます。これは、人間が飛行訓練中の雛鳥に近付いた場合、親鳥が子供を守ろうと攻撃を仕掛けるためです。こういったケースは雛の巣立ち前の時期（5月頃）にのみ発生します。従って、こ

の時期にカラスの幼鳥を見つけても、決して近付かないことが重要です。



カラスによる被害（ナス）



カラスによる被害（トウモロコシ）

2) ヒヨドリ

前述の基本手段に沿って対策していきます。冬季には集団でしつこくやってくるので、ネットを用いる場合には隙間ができないようにする必要があります。自家消費目的の圃場では、なるべくコンパクトな栽培方法を取り入れ、効率よい対策が出来るように、備えることが重要となります。

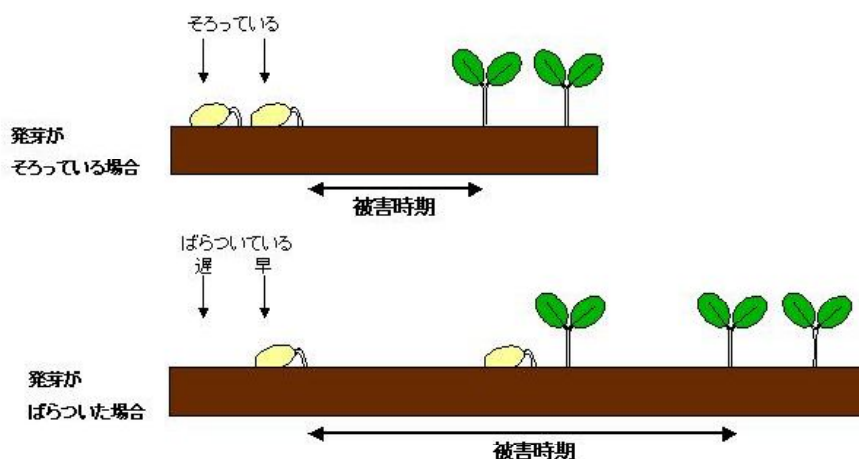
3) ムクドリ

農作物被害以上に糞害による被害が多く発生します。街路樹の剪定を慣行するなど、なるべくねぐらにされにくい環境を整えることに加えて、ネットや防鳥糸などを設置し、対応しましょう。

4) ハト

ダイズの場合は子葉が地表から豆の形で出てから、緑色になって堅くなるまでの時期に集中します。キヒゲン（チウラム80%水和剤）の粉衣が効果的ですが、絶対的なものではありませんので注意が必要です。一斉播種や均質な土づくりなどにより生育のばらつきを少なくし、被害の分散を図るととも

に被害時期をなるべく短く抑えることが重要となります。



5) スズメ

防雀ネットなど、細かい目合いの防鳥ネットを設置するのが確実な方法です。茂みなど、逃避場所が近くにあると被害が出やすくなりますので、可能な限り除去しましょう。乾田直播栽培などでは播種時期の被害も問題となります。種用剤の忌避剤としてアンレス（チウラム80%水和剤、キヒゲンと同成分）などがありますが効果は絶対的なものではありません。ダイズのハト害同様、広域一斉播種などの耕種的防除を併せて行う必要があります。

参考資料

- ・ 藤岡正博・中村和雄（2000）「鳥害の防ぎ方」 家の光協会
- ・ 中央農業総合研究センター鳥獣害研究室HP
<http://narc.naro.affrc.go.jp/kouchi/chougai/>
- ・ 山岸哲（2002）「オシドリは浮気をしないのか 鳥類学への招待」中央公論新社
- ・ 上田恵介（1990）「鳥はなぜ集まる？ 群れの行動生態学」東京化学同人
- ・ 山岸哲 他 監修（2004）「鳥類学辞典」昭和堂